

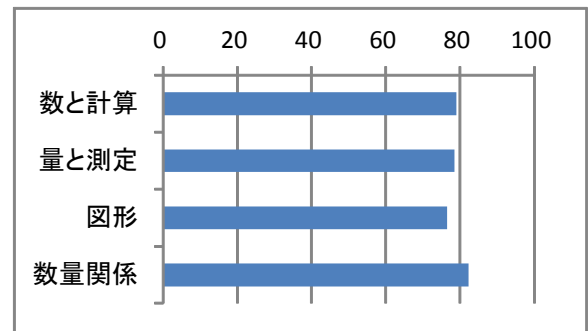
## 小学校算数について

※本市のデータは、市学力対策委員会の採点によるものである。

### 算数A「主として知識に関する問題」の結果

領域ごとの調査結果については、4領域とも全国よりも高い80%程度の平均正答率を示しています。特に、「量と測定」「数量関係」領域においては、すべての設問の平均正答率が全国よりも高く、量感や二つの数量の関係についてよく理解されています。

今後の指導にあたっては、「図形領域の正確な知識の習得」や「数量関係と数直線図等との関連付け」について、日常的に指導の充実を図る必要があります。



#### 【除法の意味（基準量を求める場合）】

立式等の指導においては、場面と図を関連付ける指導を大切にしてきました。特に、数直線図を活用し、二つの数量の関係を適切に捉える指導を推進してきました。基準量・比較量・割合の問題の立式においても、テープ図等と数直線図との関連付けを図りながら指導を進めることが大切です。

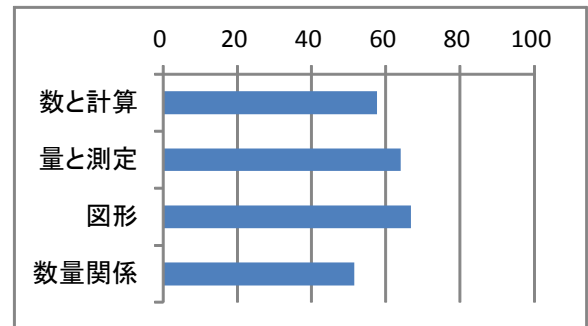
#### 【三角形の底辺と高さの関係】

三角形の底辺と高さの関係については、いろいろな向きで示された三角形についても情報を適切に選択して活用することができてきます。今後の指導においても、底辺と高さを色分けする具体的な支援に加え、多様な見方や考え方を大切にする問題解決の授業を進めていくことが必要です。

### 算数B「主として活用に関する問題」の結果

全領域において全国よりも高い平均正答率を示しています。しかし、特に「数と計算」領域においては、計算の結果をもとに考察したり、見当を付けて計算を進めたりすることに課題が残ります。

今後の指導にあたっては、「なぜそう言えるのか」「何を調べればいいのか」等、計算の結果を的確に使うこと、予想を通してその結論に至る根拠を明らかにすることを日常的に意識した指導の工夫改善が必要になります。



#### 【日常事象の解釈と根拠の説明（おつり）】

どちらの場合がおつりの硬貨の枚数が少なくなるかが問われる場合、計算の結果の意味理解が必要になります。立式の根拠等への指導のみならず、例えば「わり算の商とあまり」などのように、計算結果の意味を言葉を用いて説明するなどの言語活動を取り入れた指導していく必要があります。

#### 【目的に応じた判断と筋道を立てた表現（調理）】

目的に応じた所要時間等の見当を付けるためには、条件に従い必要な情報を取り出し、計算の結果をもとに説明する必要があります。そのためには、「予想」を取り入れて、「時間制限があるから、最短時間なのだから」等の条件をもとに多様な思考を促し、学び合いの充実を図ることが大切です。

### 質問紙調査から〈算数の学習について〉

算数の学習の仕方については、ほとんどの項目において、国や県よりもよい傾向が見られます。特に、「算数の勉強が好き」の割合は高く、「もっと簡単に解く方法がないか考える」、「公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」の項目については、県よりも4ポイント程度（選択1と2の割合合計）のよい結果を示しています。しかし、「普段の生活の中で活用できないか」については、県よりも若干低くなっています。今後、日常生活との結びつきを意識した有用感を持たせるために、算数的活動や言語活動の充実を図り、より一層の豊かな学びを構築していくことが大切です。

## 中学校数学について

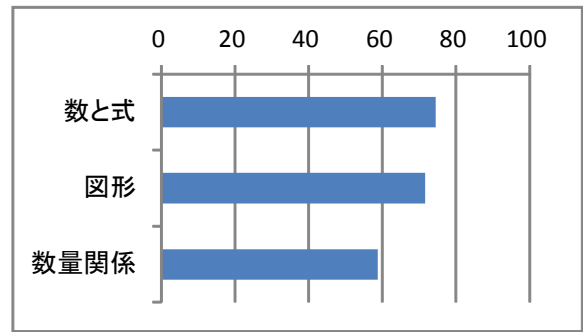
※本市のデータは、市学力対策委員会の採点によるものである。

### 数学A「主として知識に関する問題」の結果

領域ごとの調査結果については、全領域において全国より高い平均正答率を示しています。

「図形」領域においては、70%以上の平均正答率を示していますが、基礎・基本の知識等の習得という視点で課題が残ります。

今後の指導にあたっては、具体物を活用した指導により、実感を伴って図形の性質等が理解できるようにすること等、体験的な学習を取り入れ、意味理解を深めることが必要です。



#### 【平面図形の基本的な性質・証明の意義】

平行線の作図の根拠や三角形の合同条件等の活用について、さらに指導の充実を図る必要があります。どのような根拠をもとにその性質が成り立つのか、問題条件で変えられること・変えられないことは何か等を明らかにしながら、証明の必要性和意味についての理解を深めることが必要です。

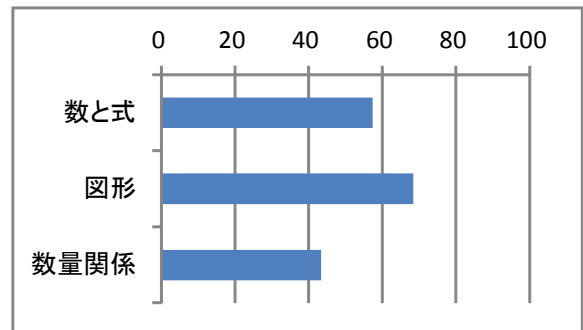
#### 【一次関数の式・意味】

与えられたグラフから、傾きと切片を読み取ったり、2つの量の関係が一次関数かどうかを判断したりすることについては十分理解されています。さらに、2つの量の関係をグラフ・式・表の相互の関係を常に意識し、関数関係を多面的に捉えていく指導が、関数指導においては有効と考えます。

### 数学B「主として活用に関する問題」の結果

領域ごとの調査結果については、「数と式」で50%半ば、「図形」で70%程度の平均正答率を示しています。特に「数と式」については、全国よりも非常に高い結果を示しています。しかし、「数量関係」領域においては、40%程度の平均正答率と課題が残ります。

今後の指導にあたっては、思考力・判断力・表現力等を育む観点から、根拠を明確にして説明する場面等を設定し、言語活動の充実を図る指導の工夫・改善が必要になります。



#### 【発展的に考え、予想すること】

予想された事柄が成り立つ理由を説明し、新たに予想した事柄を説明することについては大きな成果がみられます。今後も、予想すること、見通しを持つこと等の指導を大切にしたい課題解決の授業の推進が大切です。また、問題の条件を変えるなどして発展的に考える支援等も重要です。

#### 【情報の適切な選択と判断】

昨年に引き続き、ヒストグラムを比較して特徴を読み取ることに課題が残ります。資料を目的に応じて適切に解釈し、資料の特徴を表す代表値として、平均値や最頻値等がどのような理由でふさわしいかなどを話し合うオープン・エンド形式の場面等を多く設定する必要があります。

### 質問紙調査から〈数学の学習について〉

「数学は大切である」、「数学ができるようになりたい」、「言葉や式を使って最後まで説明すること」についての割合は、90%程度であることから数学に対する関心が高いことを示しています。また、「解き方や考え方をノートに書く」ことについての割合は、全国や県よりも高いことから、数学的な思考力・表現力の育成における指導の充実が図られていることが分かります。

しかし、「数学の勉強が好き」、「あきらめずにいろいろな方法を考える」についての割合は、全国よりも低いことから、課題解決の授業を基盤に学び合いの充実を図ることや達成感や満足感を実感できる指導の工夫が喫緊の課題としてあげられます。